

令和2年度

学校関係者評価 結果報告書

学校法人Adachi学園

専門学校名古屋デザイナー学院

令和3年7月1日

はじめに

昨年度の自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会が調査・分析し以下の通り、「令和2年度 学校関係者評価 結果報告」をまとめました。

今年度は、学生アンケートの回収率も高く、ご協力いただいた皆様に感謝いたしますとともに、本報告書をより良き学校運営のための一助としてご活用いただき、学校が益々発展されますことを委員一同祈念いたします。

学校関係者評価委員

(委員長: 学校長)

北代 雅典

(外部委員: 5名)

坂本 隆 河村 寛喜 亀崎 敏郎
田島 治郎 久保田 一成

(事務局・事務長)

山田 佳毅

(1) 教育理念・目標

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(1)- 1	学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	学則に基づき、学校運営を遂行しており、特に課題はない。	今後、ますます社会に開かれた職業教育機関として、常に変革ある学校づくりをして頂きたい。
(1)- 2	学校における職業教育の特色は何か	4	カリキュラムや教育イベントを通じて、業界水準の授業内容である自負はあるが、教育内容の評価や学生作品の評価など、広く業界人の意見を多く反映できる環境づくりを検討している。	産学連携の教育は、客観的に推進できている。改善として考慮されている事は、教育の質を高める方策として、是非とも、業界との連携をより強化して頂きたい。
(1)- 3	社会経済のコース等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	学校運営計画として、3か年計画を校長の発意により策定している。各部署が連携して作成したもので、魅力ある学校づくりを推進するため、教職員全員で共有している。	学校全体のグランドビジョンから学科ビジョンに繋がる3か年計画は、学校運営の中期計画として、具体性があり高く評価できる。
(1)- 4	学校の理念・目的・育成人材像特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	入学から卒業までの各半期ごとに学生オリエンテーションを実施、保護者に対しては、特に就職オリエンテーションとして会を設け、周知に努めている。今後とも、保護者との情報共有をしていく場を広げていく。	学生が発行する諸規定「学習案内」は明確に表記されているものの、学生・保護者の認識は共通とは限らない。適時、学生・保護者に配慮した対応をお願いしたい。
(1)- 5	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のコースに向けて方向づけられているか	3	新年度学科計画を立てる際、業界リサーチを学科長により行っている。今後、知技の向上のため各業界のセミナーへ積極的参加させたい。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

本校は、デザイン業界での就業を目指す職業教育機関の使命として、常に変革する社会に対応した学校づくりを今後とも実践する。内部統治として、教育の成果に関し、第三者の視点として、教育編成委員会より意見を聴き、反映させていく体制を強化する。学生は、自分づくりに勤しみ、夢を実現できる学校へと発展させて参ります。

(2) 学校運営

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学校理念・目標に基づき、運営方針は策定されているが、学科により教員能力が異なる。指導教員等の配置を検討している。	知識・技術は基より、人間教育も同様に大切である。指導体制をより強化願う。
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は予算、人事、設備と連動して作成され実施している。事情により計画変更もあるが、随時、今後も進捗して機動的に実行していく。	特に問題なし
(2)-3 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか有効に機能しているか	4	業務分掌により各教職員は自らの業務を責任を持って全うしている。ただ業務量のバランスが良いとは必ずしも一定ではない。OJTを経て業務の平均化に努めたい。	企業でも言えることだが、できる教職員に業務が偏らない体制を望む。
(2)-4 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3	ベテランと中堅・新人の構成比を維持しつつ中長期の計画を策定されている。	長期的、かつ年代のバランス、また次世代を見据えた人事を考慮していく必要がある。
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3	意思決定システムは確立している。各業務における相談、決定は校長、事務長、学務責任者により意見調整を経て遂行している。	特に問題なし
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	日々の教育活動において特にコンプライアンスを重要視している。また、学生にもインターンシップ先や就職先の職務規定の徹底を学校で指導している。	特に問題なし
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	主にホームページにて情報公開を適切にしており、特に課題はない。	ホームページの情報公開にとどまらず、情報発信としての積極姿勢を学校広報に期待したい。
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化ははかられているか	3	限られた人員による運営のため、情報システムの整備と負担の平均化を検討し、職員にとって働きやすい職場作りに努める。	個人情報を扱う為、情報セキュリティは学校全体の取組みとして推進をしていただきたい。

今後に向けての学校の考え

本校では、学校運営の三位一体として広報・学務・事務の業務体がある。各部署の長は、部署の業務のみでなく、各部署との連携役も担っている。予算・実行・検証を進捗し、各諸問題に対し問題解決を今後も実行できる環境を構築する。また、勤務環境として、教職員にとっても魅力ある学校として共創して参ります。

(3) 教育活動

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(3)-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	業界ニーズを踏まえた上で策定されているが、学力の二極化に伴い、カリキュラムやクラス編成、個々のレベルに応じた指導を検討する。	現行の教育課程編成から、より職業教育の質の向上を目的とした、授業改革が計画されており学校の教育姿勢を高く評価できる。
(3)-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	3	教育到達レベルや学習時間数は明確にされており、特に課題はない。	特に問題なし
(3)-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	3	学科カリキュラムは、業界のニーズに則したカリキュラムを計画・実施している。また学期毎にカリキュラムの見直しを行っている。	学校3ヶ年計画では、企業目線による実践教育に根差したカリキュラムの推進を願う。
(3)-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	業界調査を行った上でカリキュラムを作成しているが、さらに教職員と業界人との繋がりを増やし、高いアンテナを張って情報収集していきたい。	キャリア教育は、キャリアサポートセンターの主導を通じて、万遍なく対応いただきたい。個々の学生に就職担当・学科担当共に情報共有し、学生指導に対応願いたい。
(3)-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	3	より多くの企業と常に意見交換を行い、様々な意見や評価をいただき、今後のキャリア教育に繋げていく。	業界分野の声を教育に反映する体制を強化いただきたい。キャリア教育においても机上と実践が必要である。
(3)-6	関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業へのインターンシップやスキルアップ講座を展開しているが、より効果的に取り組める工夫をしていく。	ビジュアルデザイン学科での職業実践の成果を上げている。他学科においても、推進いただきたい。今後とも、企業と連携の深化を願う。
(3)-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	学生アンケート(スチューデントエコー)を学期毎に実施しており、特に課題はない。	特に問題なし

(3)- 8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	主に教育イベントと一部授業において業界人の意見や評価をいただいているがさらに増やしていきたい。	職業教育に対する外部関係者からの評価を反映できれば、また異なった発想も生まれるため推進をしていただきたい。
(3)- 9	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則及び学生心得・細則に従い学生便覧に明記し、その基準は明確になっている。	特に問題なし
(3)- 10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	授業科目の他、特別授業や対策講座などを計画し、資格取得等を検討していく。	検定取得も自発的にならない場合がある。知識・技術レベルを図る意味において、対策講座等は取入れていただきたい。
(3)- 11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	教員は学科の教育目標や実施方針を遂行でき、現段階での業界レベルの指導ができるレベルであると判断している。	学校側の評価とは異なるが、学科による担当者のスキルレベルには差を感じる。学科間の相互サポートを再度検討して頂くよう要望する。
(3)- 12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	採用時点から業界との繋がりや経歴を考慮し、業界の最先端を知り、業界と直結した指導が行うことができる教員の採用を検討していきたい。	業界人としての指導と人間形成における指導の両方を一人で兼ね備えた人材は至難である。バランスを考慮した教員組織づくりを推進いただきたい。
(3)- 13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	3	業界の変化や学生の質に対応することができるよう、業界セミナーへの参加や、学生の変化に伴う指導方法の勉強会を検討したい。	勉強会を積極的に行って頂きたい。
(3)- 14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	職員一人ひとりの業務量が多いため、なかなか研修に充てる時間が取れないのが現状であるが、今後は優先的に研修等に参加しスキルアップに努めたい。	学科間での担当者スキルの差を、個人研修で行わなければならない。反面 クラス担任等の業務をこなしつつ研修を中長期に受けることが難しい現状も理解できる。

今後に向けての学校の考え

社会における業界の思考・姿は刻々と変化し、学生の質も時代の変化で思考・姿が変化している。本校は、社会・業界・学生等敏感に対応すべく場所を形成しているともいえる。学生の質を敏感にキャッチし、対応できる教職員の育成が必要であると強く痛感している。今後とも、学生一人ひとりが達成感や充実感、自己の成長を実感でき、学校での学習時間が価値のある時間だと思える教育を行って参ります。

(4) 学修成果

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(4)-1	就職率の向上がはかられているか	3	学科担任と就職担当による日々の指導の強化体制を図る。業界研究・企業研究のサポートを重点強化する。	より一層、貴校の職業実践を業界への発信・周知する必要がある。
(4)-2	資格取得率の向上がはかられているか	3	授業科目の他、特別授業や対策講座などを計画し、資格取得等を検討していく。	検定取得も自発的にならない場合がある。知識・技術レベルを図る意味において、対策講座等は取入れていただきたい。
(4)-3	退学率の低減が図られているか	3	近年は精神的な問題など難しい課題に直面することが多い。保護者とも連携を図り早期に対応するよう努めている。	特に問題なし
(4)-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生で組織する学園校友会の尽力により同窓会の開催等を検討している。	同門の繋がりが社会を形成する一面がある。是非、卒業生の力を教育に注いでいただきたい。
(4)-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	卒業生の評価を今後の育成人材像やカリキュラムに反映させていく。	卒業生の活躍は、生きた手本であり、教育効果は計り知れない。是非とも、卒業生連携の強化をしていただきたい。

今後に向けての学校の考え

就職、デビューは本校の教育の柱として、充実したサポート体制を今後も推進していく。

退学者の抑止については、問題の早期発見と保護者との連携に力をいれるとともに、個々の職員の指導レベルの向上に努め、複数で解決あたる。また、卒業生は本校の教育指導の成果であり、学校評価と業界の情報収集に直結する学校の財産である。

アウトカム施策として、多大なる卒業生の協力を得て、教育活動に向上へ繋げて参ります。

(5) 学生支援

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(5)-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	学科担任とキャリアサポートセンターによる就職サポートをより強化していく。	特に問題なし
(5)-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	臨床心理士による「心の相談室」を設置している。相談範囲が多様化かつ複雑化の傾向がある。メンタル面の研修も今後教職員を対象に検討していく。	特に問題なし
(5)-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	日本学生支援機構奨学金制度を始め、本校の校友会による経済支援など、支援体制を整備している。	特に問題なし
(5)-4	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	年1回に学生健康診断を実施している。また、職員による救命講習を実施し緊急に備えている。	特に問題なし
(5)-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	本校では課外活動として部活を推奨している。学科担当を顧問とし、学生委員会を中心に取り組んでいる。	特に問題なし
(5)-6	学生の生活環境への支援はおこなわれているか	3	遠隔地からの入学者への提携アパートや寮は提携会社と連携をとり案内している。また学生の一人暮らしに関する相談は学科長により日常的に行われている。	特に問題なし
(5)-7	保護者と適切に連携しているか	4	全体周知については、期末に手紙対応。個別対応に関しては、学科担当が窓口となり、保護者との連携を図っている。	学費・教育・学生生活全般において、保護者に対して、情報提供をされている。今後も、推進して頂きたい。

(5)- 8	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業後の進路相談や転職サポートも検討したい。また、積極的に卒業生を訪問し、情報収集を行いたい。	求職情報として、卒業生対象に転職に関する情報などを配信できるサービス等を検討して頂きたい。
(5)- 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	社会におけるニーズを熟慮した結果であるが、現在、夜間部は募集停止にしている。	生涯学習の振興に資する体制として、社会人ニーズについて調査頂きたい。
(5)- 10	高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3	高校側の要望により、業界を知る意図として「業界研究」出前授業を行っている。	今後も、高校との連携を継続頂きたい。

今後に向けての学校の考え

学生相談に関して、学費支払い等の経済的相談、教育サポート・就職サポート等の教育的相談に加え、学生本人・家族のメンタル的
心理系の相談が年々増加している。本学では、臨床心理士による「こころの相談室」を設置し、対応しているが、すべてが相談室で
解決できる案件ではないため、各教職員においても、各種研修を実施し、学生対応力を向上させていく。

(6) 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(6)- 1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	設備計画を作成し、より効果的で安全、快適な学習環境づくりに努めている。業界水準の設備機材にて教育を推進している。	特に問題なし
(6)- 2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	インターンシップにおいては、企業連携の第一歩として推進している。海外研修旅行は、費用面において、学校負担等も検討し、広い知見を得るための研修としたい。	特に問題なし
(6)- 3	防災に対する体制は整備されているか	4	救命講習等の研修を教職員に普及することを検討している。	防災備品の備蓄等対応願いたい。

今後に向けての学校の考え

気象庁を始め各関係機関より東海南海地震に対する災害対策の促進が求められている。本校として、防火・防災の体制作りを進めていく。避難訓練を実施し、教職員・学生共に、危機管理に対応できる体制づくりをしている。施設や設備も安全面と利便性、清潔感を考慮した整備を第一に進めていく。また、教職員においても、日常的に危機管理意識を保つよう、防火・防災の講習会への参加を促す。

(7) 学生の受け入れ募集

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(7)- 1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	来校率、出願率を教育サービスの魅力の指標と捉え、商品力を検証し、改善に取り組む。 特に来校者のニーズを的確に掴めるよう、学校選び指標アンケートを実施する。	特に問題なし
(7)- 2	学生募集活動において教育効果は正確に つたえられているか	4	現状、学科別の就職率を過去数年にわたり 開示しているほか、主な就職先や取得資格、 国家試験合格率などもホームページや 印刷物等で伝えている。 今後も透明性を維持、継続していく方針。	特に問題なし
(7)- 3	学納金は妥当なものとなっているか	4	同業他校と比して相場であり、また提供する 教育サービスとその成果に関しても、 学費に見合うものと考えている。 当面、学納金の変更は考えていない。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

入学検討者に対して、本校における学びの特色を始め、2年間の学校生活が有意義かつ楽しさを創造できる体制を今後とも構築していく。
そのために、一人ひとりに対する親密な進路相談、入学前から卒業後までのサポート体制をしっかりと伝え、検討していただく体制にしている。

(8) 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(8)- 1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	専門学校を取り巻く募集環境は依然として厳しさを増しているが、見学者、在校生へのきめ細かな対応により学生の増加傾向にあり、これを継続できるよう務める。中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を計る一方で、施設設備の充実並びに学務体	特に問題ない
(8)- 2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	年度予算は中期計画と関連して立案されており、目的や目標を勘案し計画達成に向けたものになっている。予算の執行については毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら、行っている。	特に問題ない
(8)- 3	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、監事により業務、財産状況の監査を含めて会計監査が行われており、会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出し決裁を受けている。	特に問題ない
(8)- 4	財務情報公開の体制整備はできているか	3	本校としては、財務諸表の公開については、ホームページに公開している。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

近年、ほぼ予定通りの募集人員が確保出来ていることから、学校の財務状況は安定しており順調に推移しているが、学生活動による経費の増大や、退学者の増加など懸念される部分も多く、経費節減に努めながら健全な学校運営を目指していく。

(9) 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(9)- 1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	特に問題はないが、新制度や規則の制定、各種届出事項などの際に多角的にチェックし、法令等を遵守する体制を構築するとともに、運用が適切に行われているかを責任者間にて検証している。	特に問題なし
(9)- 2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学校に必要な個人情報の保護を毎年の講師会において専任教員・兼務教員ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	内部監査を実施しており、適切に運用している。
(9)- 3	自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	3	定期的に確認を行うことで発見することも多数あり、その都度レベルの向上に努めている。	今後も定期的に改善に努める。
(9)- 4	自己評価結果を公開しているか	4	本校としては、自己点検・評価の公開については、ホームページに公開している。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

コンプライアンス重視から個人情報の流出事故がないよう、さらに教職員一人一人の意識向上を目指す。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(10)-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	3	本校周辺において、地域と連動した清掃活動をしている。また、毎年9月初旬に1年生を対象とした夏季合宿を実施している。合宿先における清掃活動等知識・社会に根差した活動を今度とも実践していく。	学校の施設を開放して住民の皆様にも学校への認知・理解・交流も検討いただきたい。
(10)-2	学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	3	単年毎の活動が多いため、継続的にできる活動を検討していく。ボランティア活動に参加できる体制を確立していく。	地域貢献(地域清掃)のみならずボランティア活動を通して地域の活性化に参加いただきたい。
(10)-3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	本校近隣の会社や商店街・自治体など共創した活動も柔軟に対応していく。	市民参加型の授業も検討願いたい。

今後に向けての学校の考え

社会貢献は本校の教育目標の中でも特に重要なポイントとして捉えており、授業や教育イベントにおいて積極的に社会貢献活動に取り組んでいく。

非営利団体の活動イベント等に参加し、教職員・学生共に参画している。今後もその輪を広げて社会に寄与していく体制に務めて参ります。

(11) 国際交流(必要に応じて)

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(11)- 1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	継続して受入体制を強化していく。	特に問題なし
(11)- 2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	適切な手続きを行っており、問題はない。	特に問題なし
(11)- 3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	文化の違い・意思疎通等について、随時個別対応している。	人数が増えてきた場合は組織的な支援体制を検討いただきたい。
(11)- 4	学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	3	企業と連携しグローバルな教育を目指したい。	国際化は今後の大きな課題である。引き続き検討願いたい。

今後に向けての学校の考え

今後、ますますグローバル社会に発展していくため、国際交流に力を入れていく。
また留学生の受入を強化し、国際社会への貢献と共に、学生の国際化や語学力アップなどを図って参ります。